



故郷男鹿でのロケ。左は山崎勇氏
(NTV火曜サスペンス劇場「帰郷」の撮影)



ひよこから育てたアヒルの「あっちゃん」と



昭和52年、NHK大河ドラマ「花神」に出演

俺ネ。東京にあこがれて、その勢いで、東京の女と暮らしてたことあったんだ。で、ダメで…。ま、役者は独りの方がいいかなと思っていただけだけど、このたびヒョンな縁で嫁さんもらったんだよね。どこの誰だと思おう。わかるわけ

ねえ。スイマセン。同郷・男鹿の船越の生まれ。船越小・中学校の七つ後輩の美人妻だ。エヘ、アハハ。そうなんだ。そう四年くらい前の初夏の頃。東京は青山で、色っぽい女に声かけられた。「あの、アワツ・ゴウさんで

すね」(あれッ、おれのフルネーム知ってんの？顔は見るけど名前が…とは言われるけど、俺も売れてきてるなァ。)「船越なんです、私も。じゃあ…」(もう、いなくなっちゃった。へんな会話。)毎年一回開く「首都圏・男鹿の会」という在京のふるさと会がある。そこで再会した。「やあ、あのときの」「どうも」。船木俱子というその名も、その日わかった。彼は中学二年のとき映画に出たことがある。東映教育映画「なまはげ」のロケ隊が主役の少年を現地

でさがして撮影するということで地元・男鹿市の中学生を対象に面接した。選ばれたのは、この私。心のきれいなやさしい少年。ただ、知能が遅れているのでまわりから馬鹿にされ、いじめられるが、「なまはげ」が唯一、自分の味方だと思っている…という役。どう、ピッタリでしょ？どかが。話がそれている。それいてません。その映画を俱子が「小学校二年のとき、学校で観た

でさがして撮影するということ地元・男鹿市の中学生を対象に面接した。選ばれたのは、この私。心のきれいなやさしい少年。ただ、知能が遅れているのでまわりから馬鹿にされ、いじめられるが、「なまはげ」が唯一、自分の味方だと思っ

んです。アラ。ステキ。と、心ときめきました。そのときのファンなんです」という。『俳優』はこれだからやめられないってば。チガウチガウ。中学生のころの話。これは。でも、うれしかった。デート申し込んだよ、早速に。浅草で「なまず鍋」を食べたんだ。八郎潟は魚いっぱいとれるけどなまずは食べなかったよ。きつと同郷の人と田舎っぽいもの食いたかったんだねえ。心の素直な、まじめな姿勢の詩人だね、俱子は。ライフ・パートナーとして、助け合って生きていこうよ、と約束した。そのうち、実家どうして行き来が始まって、「うちの息子が世話になってるそうで」「なまも、うちの娘こそ、世話なって…。なんぼ頼りにしてるやら、こっちは安心していいッス」。JR・新浦安(デイズニールランドのとなり駅)の俺の部屋に、俱子は青山から移り住んだ。あの浅草でのデートから丸二年たった一九九二年十二月二十五日、入籍。その日、男鹿へ飛び、あとのりの弟たち、栗津寛之と船木義光が指揮してその夜、船越の料理屋で両家族集い食事会をした。さ

さやかな結婚の宴である。雪が降りつもる生まれ故郷での契りであった。俱子の父が一滴も飲めない酒をうれいからと呑んでむせた。

一九九三夏。栗津寛之にとって「ふるさと」は競争・一千倍の芸能界に斬り込むべき新たな原動力になろうとしている。

ふるさと様。あなたもお元気でー。

ふるさと様。あなたもお元気でー。